WASON
HQ
1104
J74+

The Woman's Magazine.

女學雜誌

一冊五錢

版權所有

當府内無郵税

各土曜日出版

明治廿一年 (第百參拾七號) 十一月廿四日發

社説

將來の日本人民(第一)切に此の問題を自問すべし

論説

米國の女子(其二)(元良勇次郎)○女學生論(星野光多)

批評

婦女の教育○產前產後○三の婦人雜誌○哲女の卷の評○貞女兩夫に見へずとは何の言ひぞや○サラ・アウステン夫人○眞美人を許す

叢話

結婚と死去と何れか祝すべき○爲すべきの天命○婦人の德は餘韻に在り○女子看護法の心得○女生の運動……羽子板遊

小説

哲女の卷

佳傳

佳傳の功德

寄書

新報

外報

小供談

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

WASON
HQ
1104
J74+

Nov. 2 - 1888
No. 137

The Woman's Magazine.

女學雜誌

一冊五錢

版權所有

當府内無郵税

各土曜日出版

明治廿一年（第百參拾七號）十一月廿四日發

社説
將來の日本人民（第一）切に此の問題を自問すべし

論説
米國の女子（其二）（元良勇次郎）○女學生論（星野光多）

批評
婦女の教育○産前産後○三の婦人雜誌○哲女の卷の評○貞女兩夫に見へずとは何の言ひぞや○サラーアウステン夫人○眞美人を許す

叢話
結婚と死去と何れか祝すべき○爲すべきの天命○婦人の德は餘韻に在り○女子看護法の心得○女生の運動……羽子板遊

小説
哲女の卷

佳傳
佳傳の功德

寄書

新報

外報

小供談

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 137. NOVEMBER 24TH, 1888.

EDITORIAL:—The Future Japanese Nation(A vital Question).

LEADING ARTICLES:—Women of America, by Mr. Motora. PH. D. On Girl-students, by Mr. K. Hoshino.

CRITICAL NOTES:—Woman's Education." "What is the Objection to Remarrying?." Criticism on the True Beauty"

MISCELLANIES:— "Which is the More to be Congratulated, the Wedding, or the Funeral.?" "A Divine Commission" "Woman's Silent Influence." "Hints about Nursing (Miss M. Tsuda)." "Healthful Exercise for Girls."

NOVELS:— Tetsujo no Maki.

BIOGRAPHIES· Biography and Morality.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

婦人會員の會話及
内の衛學に適せり

蓋し最良の教科書

通信女學 第拾四卷 發兌

去月廿六日出版せり

一冊枚數七十頁
定價廿錢全國無郵稅

●珊瑚の珠 （第八十七回）

西行法師心を雲水にひとしくして國々をあまねく廻りて暮つかた津の國江口の川竹の〇〇に一夜をあかさんと請ければ若き女子出で此所の掟なればひとり旅はとめざるよしをもてことわりけるに

よの中をいとふまてこそかたからめ假りの宿りを惜む君かな。

と讀まれしかば女子返しに

世をいとふ人とし聞かはかりの宿に心とはなと思ふはかりそ。

と聞へてやがて留めけるとかや而してより後々迄近國を廻りよき歌どもあれば文をかへて送りけるとぞまたある處にて雨降り來りけるにある家に立よらんと來り見るに年たけたる老女のあまもりをおくとてたちまとひけるに西行

しつがふせ屋をふきそわつらふ

と言ひ懸けければ彼老女

月はもれ雨はとまれとおもふにそ

と答へたるとかや德孤ならず必ず隣あるとなれど此ころの賤の女なともいとやさしきこともにこそ。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百三十七號　明治二十一年十一月廿四日發兌

社説

○將來の日本人民

一。切に此の問題を自問すべし。

極めて冷然として考ふるも、日本に亡國の徴甚だ多きことを見るなり。抑も、宇宙に眞理の實在することを信じ、眞理に正邪善惡の別實在することを信じ、正邪善惡の岐るゝ所ろ必らず其賞罰あることを信ずるものは、何如に日本を神洲なりとして誇ると雖ども、又何如に日本に特別の攝理ありと認たむると雖ども、然れども我日本國現今の景勢を見ては之が爲めに長大息せざる可らず。蓋し靈魂もし永遠に存すべしとせば、其の賞罰或は來世に於て行わるゝこともあらん、然れども國家なるものはたゞ此の現世に於てのみ存するの結構なるが故に、之にして若し其の道に合わずんば亡滅すること必然、至明至正の上帝は斷然之を覆がへし、以て國と云へるものに於けるの賞罰を明々にせらるべき也。故に、深く上帝を畏るゝものは、我日本國現今の景勢を見て特に切に戰栗す。

滔々たる人民は、敢て亡國の徴の何物たるかを顧りみざるなり、啻に之を顧みざるのみならず、亡國は抑も何の爲めに悲しむべきかを知らざる也」。日本と云へる名目の滅するが故か、日本の二字は國滅すると云へども尚ほ埃及希臘羅馬の諸名目と共に存すべき也。例へば皇統連綿たる日本國の帝朝恐れ多くも之が爲めに暫らく光を沒し玉ふの故か、斯の如き之れ尤も悲痛せざる可らず。然れども更らに一事の尤も多く悲しまざる可らざるものは、二千五百年來此地に欝積したる潜勢力は之が爲に殆んど挫屈し、日本と云へる一種の動元は之が爲に殆んど進化の大勢中より劣敗し、三千九百萬の民は之が爲に殆んど其自由を失なひ、東洋第一の要地は之が爲に殆んど其開化を中止し、世界と云へる一巨人の一脉は之が爲に殆んど其の能力を失ふて、滿天下の大進化‥‥即はち天國の打建らるゝこと、之が爲に夫丈に遲滯すべきが故にある也。而して之を一個人の上に就て言へば、亡國後の日本人は、最早受け得べき丈けの自由を受くる能はず、受け得べき丈けの權力を受くる能はず、受け得べき丈けの幸福を受る能はず、異人種異人種を壓するの束縛は同胞中の制御を受るよりも慘酷なるべし、亡國後の日本人は或は印度人の如く或はシベリア囚民の如く待せらるゝことあるべし、夫妻團欒の和樂は恐らく其

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日より絶せん、愛兒を敎育するの資金は恐らく其日より乏しくならん。

然れども吾人敢て夢を語るに非ず、日本國の現况は實に亡國の徵に充滿する也。上帝の高威は此の風土山川にも昭々たり、然れども踊るもの歌ふものは多し、嚴肅にして善畏るゝもの果して幾人ありや。人間の此世に生るゝ、皆其の使命なかる可らず、然れども食ふもの溺るゝものは多し、謹嚴にして能く其任を負ふもの幾人ありや。頑强の質素より完きにあらず、然れども彼の輕冷なるよりは宜し、自重の念時として保守に陷いるとあり、然れども彼の士ひ氣なきよりは宜し、然れども今の日本人はいよ〳〵輕冷にいよ〳〵士氣を失ふものなり。試みに府外一里の地に到れば餓に泣くものあり、各地方の僻村の民貧苦の狀心を刺すなり、而して都城尤も責任多きの輩らは、皆紫きを着細き布を着て日に日に奢り樂しむあり。文章を見れば極めて氣骨なし、小說を讀めば極めて猥褻あり、士君子と語れば、其自任の溥きと商人の如し、學士論客と語れば、其自任の淺きと俗人に均し、試みに尤も賴みとすべき靑年諸君が言ふ所ろを聞けば、放蕩を世辭とし、怠惰を敬語とし、名利僥倖を以て神の如くに尊崇せり、而して之が敎育に任ずる所ろのものは果して何如ん、之が敎育に任ずる所ろのものに任ずるの民情果して何如ん。姦淫の空氣四方に充滿し、純淸潔白の氣象至る所ろに衰へ、阿諛卑屈の風四方に充滿し、正廉剛强の日本魂しひ到る所ろに消ゆ、未だ道を履んで懼るゝなきものを聞かざるに、黃金を拜して靈を滅して笑ふもの到る所ろに在り、未だ天を敬して誠意篤行するものを聞ざるに、威權に屈して義を棄てゝ媚ぶるもの到る所ろに在り、而して其多くは未嘗て日本なるものを思はざる也、魂しひなるものを思はざる也、道なるものを思はざる也、飄々として嗚呼風の吹くがまゝに從ふ。且夫れ日本の富は幾千ありや、而して其の費やす所ろを見よ、民の受くる所ろ幾干ありや、而して租稅歲費の莫大なるを見よ、國力の進退何如んと問ふべし、而して無用の華美の斯の如く太甚しくなれるを見よ。此他は吾人之を言ふに忍びず。

果して然らば、日本帝國は遂に亡滅すべき乎、然れども吾人は幸わひにして未だ斯の如く斷念すると能はざる也、何によりて未だ斷念せざる、云く日本國裏尙ほ幾多の義人を存するとを知るが故也。此等の義人の數は、彼の三千九百萬の衆に比しては固より甚だ僅少なり、然れども彼等が熱血は容易

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に冷えず、彼等が熱涙は容易に乾かず、其滿腔の精神を以て祈禱し自任し決行する所のものは、尙ほ以て能く日本國の命脈を維持するに足る也、啻に命脈を維持するにあらず、之によりて冷々たる民心も温められ、泣かざるの目も涙を浮べ、遂に化して眞摯誠德の人民とならんとするの望なきにあらざる也。故に吾人は日本國の前途を憂ふるいよ〳〵切にして、此等の義人に要むるの念亦いよ〳〵切、其同心共力して此の國土の爲めに盡さるゝの處置宜しきを得んことを熱望するや亦いよ〳〵切なり。

たゞ夫れ四民長夜の夢なか〳〵に覺むることなし、若し彼等に日本國亡滅すべしと云はば彼等は啞然として笑ふべし、若し彼等に其不義姦惡なることを責むれば彼等は冷然として嘲わらふべし、義人が言行容易に彼等を動かすことを得ざるべき也。然りと雖ども、吾等笛吹けども汝曹踊らず吾等悲しめども汝曹胸打たずと放言して止むは、義人の行ひにあらず、風に動かさるゝ葦はユダヤの野に在り、たとひ獨り野頭に宣傳することなりとも、義人は則ち大呼して汝曹悔改めよと警戒せざる可らず。左れば吾人は固く信ず、日本國現今の景勢斯の如く危急あり危殆なるが故に、義人が猶發興起するの精神は亦いよ〳〵熾んなるべし、よし假令ひ何如あることありとも彼等は決して落膽せざるべし、よし假令ひ落膽したりとも彼等は決して失望せざる可し、よし假令ひ萬一に失望したりとも必ずや彼等は決して其の自任の重責を減ずることを爲ざるべし、吾人は深く彼等を信じ厚く彼等に任ずるもの也。

左れば、吾が女性中幾多の義人にも亦た、其負へる所の責任のいよ〳〵重くなる也、而して此等の女義人を養成する所の者の責任も亦いよ〳〵重くある也、要するに彼等は亦た今日「將來の日本人民」を何如にすべきと問窮せざる可らず。

論説

○米國の女子（其二）

哲學博士　元良勇次郎演
佃與次郎筆記

先づ、此の樣に掻摘まんでは申しますが、今之を別けて申すなれば、婦人の敎育とか權利と云ふ者は、色々の所から來るもので御座りませう、必ずしも智惠があるから權利が有る、富が有るから、道德心が有るから、餘計の權利を有すると云ふことはありますまい、私は決して、米國婦人は日本の婦人に比して餘計に道德が有るとは申さない、敎育は如何にも有りませうが、其の外に米國の婦人は、日本の婦人に勝る所が一ツ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

有る、則ち米國の婦人ハ、富を有して居ると云ふとです。斯く富を以て米國の婦人ハ、權利を張ると云へば、誠に富を第一に大切に思ふ樣でござりますが、然しながら、富と、智恵と、道徳と、此の三ツを比較すれば、其の中でどれが第一に權利を主張するの助けとなるものかと云へば、即ち富です。權利ハ固より道徳でハ無い、輙ち道徳とハ同病相憐れむシンパセーなるもので、人と我との區別を取て仕舞う、人の利益ハ我利益、我ハ損するも人の利益をしたい、外の言葉なれば人を先きにし己れを後にす、又己れを愛するが如くに隣りの人を愛すると云ふが、道徳の本旨で、人と我とを同一體にする事である、併しながら、權利とハソンな物でハない、輙ち己れを先きにして人を後にすると云ふが、社會權利の基ひとなるので、己れの權利を主張する爲めにハ害を人に及ぼしても顧るにハ足りない、左れば、權利は道徳と並び立つとハ出きない、其の性質に於て、自ら相違を生ずるものです。故に權利ハ道徳上より來るでもなく、智恵より來るのでもない、肉躰の力、否肉躰の力を助くる者、即ち富が此を生じます、換言すれば權利ハ富よりして起る、然れども、時に或ハ智識に依て其形を變へ、道徳によりて其の形を替る事もある、併し、本然の本となるべき者ハ、即ち肉躰の力、富であるのです。して見れば、米國の社會を運動して居りまするのは、或ハ道徳もあり、或ハ智恵もありて、社會を動かしてハ居ますが、今實際に亞米利加の社會を重に動かして居るものが二ツあるのです。是れは別段に私が御話し申す迄もなく、孰も知て居るが、即ち富を以て亞米利加社會ハ支配されて居る、故に男女の關係に於て最も大切なる所のものは誰人も婚姻である、婚姻ハ人世に於て最も大切なるものであるが、併し、米國に於てハ、婚姻ハ始終富の爲めに支配せられて居る、其は一人の者が他の人に嫁さんとすれば、固より其人の富の多少を問ふのハ當然であるが、今日米國の有樣を見れば、其人に嫁するも畢竟其人を愛するのでハない、其人の道徳以て一生の苦樂を別つべしとなすのでもない、金が澤山あるから嫁さうと云とが澤山ある、男子の女子に於ける、女子の男子に於ける、其の通りである、左れば、富ハ常に之に伴ふて自然財あるものハ權利多きの有樣に至るのです、併し、私は此の風俗が良い悪るいと評するのでハない、只亞米利加の樣子を御話しするのです。第二には、即ち男女の愛と云ふ事を以て社會を支配して居る、併し、是れは前者と比較すれば、誠に僅かで、其

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の大半は富を以て支配されて居るのです、故に一婦人が多くの富を有して居ると、假定するならば、其の人が男子に嫁する時は此の婦人の權利は實に強きものである、又非常に男子が富んで居るならば、則ち妻を娶りても其の妻に對して大おる權利があると云ふ次第です、是れ人情の然らしむる所でしやう。

其外亞米利加の社會に於て、或は其の開化が頂上の極度に達して盈るは缺くる習ひの如く、或は滿ち過ぎて欠けんとする所であらうと思はるゝのは、則ち亞米利加の家内の有樣です、固より開化と云ふものは右に進で居るものか、左りに進んで居るものか分り惡いが、今西洋語で申せば、ホーム即ち立派なる家庭を造り、然して、互に男女相愛し、風波なき美くしき家に住うと云ふ事は、我々が一寸考れば實に大切の樣だが、亞米利加に來て見れば、ホームの思想は早や既に西にかたむきたる樣に思はれます、顧みて、十四五年前若しくは二十年前には、實にホーム〳〵と云ふて、ホーム程大切なるものはない樣に思ひ、且つ上等の社會に於ても、立派なるホームを作ッたが、今日に至りては、次第に婦人の權力が盛になつて來て、基督の曰はれたる彼の男女一躰とあると云ふのでなく、一己一己の權力が盛になつて來て、只今では、縱令妻と雖も夫と雖も政府の前に出れば一己〳〵の權利あるもので、或は妻が夫を相手取りて原告者と爲るもあり、夫が妻を被告人とすることもある、左れば最早一躰と云ふ所でなく、二體に分れたから、昔しから云ふた所のホームは、既に二ッに分裂したる樣の事情隨分少なくは御座りません。

又其のほか、亞米利加に於ては、金も澤山にあり、總ての事に分業が盛んで、日本でも昔しなれば、糸を紡ぎて布帛となし、小供にきものを拵へて遣ると云ふのだが、今日では、其の拵へた物が市中に賣てある、金を持て往て買うに過ぎない、是れだけは日本の分業も進んだのである、然るに、亞米利加に於ては、此の分業が益々盛になつて、着物は仕立屋に命じて我勞を省く、食事をするにも料理屋に往けば家で割烹するの勞は省ける、分業の道理、双方の便利と云ふ樣な所から、家を持て居て、料理屋に三度づゝ行くのも不都合だから、一層宿屋住居にしたら宜からうと云ふて、ファミリーホテルと云ふ樣なものがある、是れは、大きな家があつて幾つかの入口の戸がある、戸を開けて這入れば、中に六ッなり五ッなりの部屋があつて、部屋には食堂もあれば、臺所もあり、寢室も

ある、故に此の一ツの戸を買込めば、其の中に一家族が殘らず住へると云ふ趣向です、即ち隣房は他の家で、階下は即ち料理屋であッて、其所にて食事する事も出きる樣になつて居る。斯くて愈々分業が盛になりて、衣服を造る事ばかりでなく、掃除の樣なとまで、何でも角でも分業〳〵でトント社會の愛情と云ふ所より觀れば器械責の社會とでも云ふべき有樣である、此等は今日亞米利加の傾きの樣に見へる。併しながら先程から申す通り、母斯頓には智惠が多い、紐育には商業が多く、ボルチモールには門閥が多き次第で、母斯頓杯には婦人の敎育は盛である、併し盛になるに從て今の樣な姿を現はし、紐育も亦其の樣な有樣を見るに至りました、併しボルチモールはまだソレ程でも無い、亞米利加全躰の市府に比較したならば、或は第二第三位の地に置かるべき事と思はれる。（未完）

〇女學生論（其三）

星野光多演

此前、御話し仕かけました、女學生論の續きを致します、此の前も申し上げました通り、女子は實に幸福の時世に生れ、明治の新らしき舞臺にセリ出しの仕掛けで湧き出て、ドコからでも見られる樣になつて參りました、私共は、其の舞臺に女子と共に藝を演ずる者として、又棧敷よりも、土間よりも、女子等の演藝の有樣を見る所の見物人として、御注意申したいとがある。

如何にも、眼を驚かすばかりなる美人がソレ湧き出でた、けれども其の美人は、只つくりつけの人形の如き者であり、或ハ綾釣人形の如き者で、立派に粧ひ飾ッたけれども、自己獨立の力を以て十分に舞臺の上で、其技藝を演ずるとが出きないとしたあらば、我輩ハ實に失望の至りに堪へない、成る程、遠方から見れば擧動が麗はしい、髮も飾りも立派であるが、能く〳〵見れば、鴟梟の黑頭布を被ッた奴が、後ろから綾つッて居る、此の影に居る黑頭布に支配せられてのみ、舞臺に運動するとなれば、却て、樂屋にかくれて居た方が增しであらうと思ふ。女子にして此の幸なる時代に生れ、明治の新舞臺ヱ現ハれて、ソシて、其の爲す所と云ふものハ一定の見識もなく、只世の中の人々の說に動かされ、男子の考に、支配せられて、人の指圖通り人の議論通りにのみ、動くものとすれば、是れハ人形で御座います、或は西洋の婦人社會に、於てハ、舞蹈が流行るから踊つたら宜からうと、云はるれば直に踊る、夫からまた、彼の國には婦人會があります、慈善會がありますと、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

云はるれば、ハイ、婦人會を起しませう、慈善會を設けませうと、忽ち之に同意致します、又御互の金を集めて、何か共同の事を致しては如何ですと、勸めらるゝときは、如何にも親から、或は夫から、金を貰ふて、其共同の事を企てませうと。果して是れは何でせう、私は人形と思ひます、自ら動く所の役者でなくして、後に綾つり手があるのです、實に今時の婦人方が、此の人形になつては困ります。日本は東洋の魁と云ふので、歐米の人々も、日本の有様には、着目致し居ります、左れば、日本の女子たるものは、歐米人に見られても、又ドコから見られても、耻かしくない様に、今の時に、己れの身を處する事を考へ、例の綾釣人形にならないよふにしなければならんと思ひます。夫には、是非是非敎育と云ふものが必要である、敎育は即ち、女子が己れ一見識を立てゝ只人形とならずして、自由自在に、運動することが出き、其材能を現はすとが、出きる爲に、有用なるもので御座います、敎育も受けず、學問もせず、智慧もなし、力もなしとすれば、人形たるより外に致し方はない、今の女子多くは工夫も無い、考も無い、思慮も無い、業も無い、夫故に人に支配され、人の自由にされるのも、亦當然の話しである、左るからに、女子の敎育と云ふものが、大切の事柄となつて來たので御座います。

扨て其敎育と云ふ事柄も、隨分廣き趣意で御座いますから、先づ敎育學者の說に從て、身體の事、智識の事、道德の事、と此の三ッに分ちて申しませう、詰り敎育とは、引き伸ばすと云ふ意味であれば、無きものを拵へると云ふ譯でなくして、聊か有る所の者を開發する者であらうと思ふです、故に、體育と云へばからだを發達する所以、智育と云へば人の材能を發達する所のもの、德育と云へば人々個々の道德の性を發達圓滿せしむる譯と思ふです。

第一に、からだの事を先に申したい、健康の身體には健康の精神が宿るとは、通例の規則です、成る程、中には吹けば飛ぶ樣な孱弱なる體格でありながら、實に恐ろしき考を持ち、或は驚くべき議論を持て居る人もある、然し、是れは例外です、けれども此の例外の人に健康を授けたならば、必ず一倍の人物になるに相違ない、早い事が私の一身に就て考て見ても何如でせう、私が病氣の時、若しくは衰弱して居る時に考へた事や、文章と、私のからだが健康にして精神の活潑なる時に仕た仕事や、作ッた文章と、比較すれば、ソレは實に同

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

じ人でハ無い樣に違ッて居る、何人でも其の通りと思ふです、好き文章を作り、好き仕事を爲さうと思ふにハ、先づからだを養はなければならん、身體にして丈夫に健康であるなれば文章も好く出きる、演舌も旨く出きる、仕事も上手に出きる、眞に案外に巧みに出きます。からだは實に精神の器械にハ相違ない、此の器械が衰弱して居る時ハ、何如に精神が能く活動しても、充分に其仕事を仕遂る事の出きぬのハ明かなる道理であると思ふです、ソレ故に事業家としても、亦學者としても、何でも人間に生れて、人間の事を爲し遂げ樣と思ふにハ、是非とも身躰が健康でなければならぬと思ふ、からだの壯健と云へるヿハ、仕事の有る人間にハ是非とも必要なる譯柄である。女四書と云ふ本を此頃讀んだ所が、左の如き驚くべきヿが書てある、曰く、卑弱と云へるヿハ、女子に於て尊むべき事柄であると、私ハ一讀して、實に以ての外の事と思ひました、今此の仕事の多き世の中に生れたる女子が、孰も彼も卑弱であるならば、誠に慨かわしきヿである、卑弱なる人に學問が出きますか、考て御覽なさい、からだの弱き人ハ十分に本を讀んで、日課を怠らずに進んで行くヿが出きますか、女生として健康を缺くならば、必ず全き進歩を爲すヿは出きますまい、先づ女生の事は措くとして學校を卒業したら如何である、若し其の人が卑弱ならば、折角學んだ學問や技藝を何れに當て箝める事が出きませう、不健康なる者であるならば、學問を人ゝ敎ゆるにせよ、技藝を傳へるにせよ、種々の塲合に適用するに於て、とても思ひの儘に爲すヿは出きまいと思ふ。

又人に嫁すと致したならば如何です、如何にも奥樣となり、妻君となり、奥まりたる所にのみ、細々としてござつて、夫を助くる事が出きませうか。或る男の子を持た親が、己れの信用して居る人に頼んで申すには、何うぞ私の息男の嫁を世話して下さい、ソコデ其の頼まれた人の申には、如何にも御世話も致さうが、あなたは如何なる嫁が御望みであるか、婆さん小膝を進めて答て曰く、左ればで御座る、私の息男は誠に弱くて困りますから、若し嫁を世話して下さるとならば、骨組の宜しい太くたくましく、車の後押し位出きる人を嫁にしたいと申したと云ふ、實に親の心は此の如きものであります。若し人の妻として始終藥が斷へない、一日おきに病院に行かなければならないと云ふ樣な事であつたら如何でせう、若し幸にして其家が高位高官の者であつたならば宜しいで御

座いませうが、中から以下通常の身分であるならば、實に其良人なる者の心情は、思ひ遣らるゝ、一日仕事しても、骨折つても、僅の所得にては、妻の藥代にも足りないとか、或は外から疲れて歸て來ても、思ふ樣に妻に慰められる所か、却て己れは終宵病婦の側に在りて、看護せねばならぬなどのとがあつたならば、良人の困難はサテオキ妻も定めて氣の毒に、思ふであらう、故に人の妻としても、健康で無ければ、一家の幸福を全ふするとは出きんと思ふ。ソレて子が出きても、弱いものからは、弱い者が出きる御規則故に、此の生理の御規則に間違が無いとすれば、其卑弱の母よりは、弱き小兒が生み出される筈て、弱き躰を以て生み出さるれば、小供も亦迷惑を致さなければならん、若し、母親が健康で、丈夫であるならば、其の子も、健康で充分の事業も、出きたらうに、左はなくして、母の弱き爲めに、學問をしやうと思ふても、出きあい、仕事をしやうと思ふても、出きないとすれば、小供の爲めには、甚だ氣の毒なる事である。(未完)

わが民はおさなごに傷けられ婦女子をさめらる、噫わが民よ、なんぢを導くものは反てなんぢを迷はせ汝のゆくべき途を絕つ

批評

(84)。婦女の教育　大本和綴三册合百五十葉定價六十錢 發兌所東京日本橋區通旅籠町 東生

此書は濱本義太郎氏が茅濱田健二郎氏が閲にて、「專ら婦女に要する文學技藝を教へ其守るべき分を辨へしむる」を主旨としたるもの也」、第一卷は文字、英語、作法、花、文、道の六の教を說き面白く出來たり。第二卷は孝行貞操以下慈善教育に至る凡そ婦女子が心得べき淑德を十二條に分つて各條に一二人づゝの貞婦烈女と見ゆるものゝ略傳を載せたり、此所ろ少さか一言せざる可らざるものあり。扨て第三卷には裁縫、毛糸編物、茶湯、活花、和歌の五部に分ちて所云る婦女子が心得べき女藝を說いたり、殘念なるは編物の部特に長くして其他短略なる事、及び女禮(前に一般の作法はあれども)看病、家政の如き尤も必要なる藝術に付て何等の教へをも爲さゝる事にあれども、然し編述の躰裁先づ以て面白く出來且つ有益なり。

別ゝ一言すべき者ありと云へるは、即ち第二卷淑女の列傳中に遊女の名の太甚しく夥多なると是れ也、此の一卷中總じて女廿一人の傳ありて其三分一即ち七人は悉く遊女なり、吾人は毎度烈婦貞女の傳集中に遊女の名の混ずるを見て常に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

不快に感じたるが其の此書の如くに夥しく混合せられたるを見るは未曾有の事なり。然れども著者は蓋し其說あるらん、本書の例言中に於て言へらく、

中卷の事跡中遊女の如きものを掲げしは其身卑賤よして如斯の智德善行あり是を推して一般婦女を仍ほ感發興起せしむるの一助とす。

是れ一理なり、然れども風敎を以て任ずる者は更に仔細に考へざる可らざるものあり。昔し春水は人情本中に猥褻の談を滿たし而して常に之れ勸善懲惡の意に出と云へり、其意或は實に然りしとあらん然ども之を讀んで勸懲の念を起したるもの殆んど絕無ありしにあらずや、又彼の辻講釋師が所云る義賊の傳を演ずるや往々にして辨ずるものあり云く盜賊にして侚且つ此の義あり尋常の士人は更らに一層に感奮興起せざる可らずと而して多くの子僧は實に之より感奮して泥棒たらんとを決心する也。著者が用意素より信切なりと雖ども而も其決果する所は必らず亦風致に害あるべし、思ふに淑女の模範となすべき善婦人は遊女の他に滔々として充滿す敢て此の如き人物を撰び用ゆるの必要なき也、西村茂樹翁嘗て云く西國の書を見るに字書に遊女の字なしエンサイクロペデアに遊女の事なし性氏字典に遊女の名あしと、實よ然り吾人も亦我國の文章を見て常に此の一事に長大息するもの也。

固より古への遊女は今の遊女にあらず、古に於ては必らずしも今に於て此の文字を見るが如くよ見去る可らざるの事情ある也、然れども今の學者にして若し止を得ず其人物を記さば、須らく之を其の一人物として記すべし必らずしも遊女の冠詞を冠らするに及ばざる也、若し九重花岡を記るすべきの必要必らず存すとせば、則ち宜しく九重花岡と記すべし、特更に之に遊女の名を冠らするものは、啻に道德上に於て許さゞる耳よあらず、文學上の趣味に於ても決して承知せざる所のもの也、況んや分もなきとに名を云ひ字を云ひ號を云ひ出所血統を云ひて而して關係もなき些細の經歷を敍するは東洋の傳紀文の通弊、今の文人が斷然除かざる可らざるものあるをや。嗚呼國家の道德を淸くせんと欲せば先づ其の文學よりすべし、文學を淸くせんと欲せば先づ其の文字よりすべし、遊女の二字向后輕々しく女學界に現出するを禁ず。

(85)。產前產後　中本一册洋綴百十六頁定價五十錢　發兌東京日本橋通三丁目丸善書店

此書は佐藤洋治氏が編著にして。第一編、妊娠及び出產の事に關する要件。第二編、育兒上の要件。第三編婦人一般養生上の要件。の三部に分ち、甚れだ信切に、且つ極めて平易に說述せり、妻母たるもの丶一讀して益あるもの也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○三の婦人雜誌

十一月十三日讀賣新聞評

女學雜誌は片外しに無地の紋付を着、小笠原流に坐作進退を正し、斯ら遊ばせとか、あゝ遊ばせとか云ふ御家中の奧樣の如く。いらつめは文金の高髷に赤い半襟を掛けて、化粧身作りに日を暮し、鏡台に向つてほんとにじれつたいよと云ふ、深窓の處女の如く。貴女之友は引くゝりの柘榴に、前垂襷で裳物洗濯拭き掃除、餘り窶れざるも亦擬しもせず、ても どうしてこんなに忙がしいだらうと云ふ、世話女房の如し。

○哲女の卷の評

青森浦町村　水田生

小生娘二人有之妻の姉妹も瀬山に候間貴社の女學雜誌拜見罷在因て得たる利益よむとも盡きぬほどにて千萬難有奉存候餘事は扨置き婦女子の目をとめ心を娛ましむるもの小説を第一と存候其中にて薔薇の香は甚はだ有益に奉存候しのぶく踊みゆしみとほる程に覺申候これらをや小說の上乘と可申歟と寒滅心候さるを………

○近時の女學論

一。貞女兩夫に見へずとは何の言ひぞや

去十日發兌專門學會雜誌第二號に、首藤貞吉氏の稿に係る右題の論文あり、貞女とは夫ある間に就て云ふ、夫なき後に兩夫に見ゆるは既に貞女たり得る境界を越たる後の事にて、再婚決して貞を破るにあらずと論じ、且つ、デュマルク、スエーデン、ウールテンベルグ、フランクフホルト、ハノヲブル、等に於て寡婦に再婚を許すの法律は、妻を失ひたる夫に再娶を許すの法律と殆んど強弱あしと辨ず、而して其論未だ了らず、他日一評すべし。

二。サラー、アウスチン夫人

前二回迄て略評したる、穗積陳重君「婦人の勇氣」演說の筆記續き、去る十日發兌羅馬字雜誌に載せらる、此度は主として著名の法學者アウスチン氏が夫人の事に關す、其の美蹟實に驚歎すべきものある也、此頃ろ同氏は書二卷を寄せて同夫人が傳記の材料を吾人に恩貸せられたれば、近日之を綴りて讀者の一覽に供ふべし。

○眞美人を評す（其一）

不知庵主人

若夫此書にして假及社々員の著ならざれば何ぞ物好きに惡まれ口を叩かん新聞の廣告立派なりと雖も發賣は能書ほどにきかず天氣豫報も折々は相違するものなればなりさは云へ天晴小說改良の先達なりと自任する人にして我れ眞美人なりと名乘らるゝに於ては浮れ男の拙者何とて見脫すを得べき校補者及著者眼鏡をふきて御目留められませう。

九華氏は新躰詩の博士なりと承はる狀容の緻密なる事スコット、キングスレイもやはか及ばん。十二頁に「和入春風滿洛城」と云ひ十四頁に希臘のミソロジーを引き四十一頁に「月を睨むか山の嵐に叫か野猿の魂」と云ひ五十八頁にレデー、オフ、ゼ、レーキを引きたるは其博學宏才を知るに足るべしそれのみか四十四頁及四十五頁の惡漢が會話六十頁及六十一頁の漁夫の流忙は落語家より得たると覺ゆ又浮世の微に涉るを測度すべし。

然るに脚色は淡泊にして氣味の惡き所は枕団子を食ふが如くきつい所は日增のパンをかぢるが如き殊に前後不信の多きは頗る怪むべし例へば十九頁に「六日の月の背白い光線」云々とあり評者天文學者にあらざれども六日の月は日暮るゝ時既に西に近きと考ふ然るに十頁に「東の山の上から月は夕化粧をして出掛た」とあり六日の月は夕化粧をして東の山より上るものにてあらねば「銀の粉な跡に撒い

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

樣に野山の上」を照らすものにもあらず全く夜にして月に二種あるは如何是が詩人の想像の妙なる處なるか十四頁に「月には雲がかぶさつて來て」とありて其雲未だ霽るゝとも思へぬに十六頁に「雲めがまた月を」とあり是はリーホンがこわいと思ひし迷なるか三十九頁に「大理石の柱に腰を掛けて居る一人の若い男」となり五十二頁に「湖水の側の野に坐つて」とあり是は活版小僧の植ちがひなるか次に餘計な言葉を練返す癖あり例へば

二頁「それは女だ娘だ」

七頁「私は此事を見出す度に……涙が……涙が……流れ……流れます」

九頁「ヨ……お孃樣……ヨ……決して……決して……子貴孃」

「親切にして呉れるのは……私しは……私しは」

十四頁「のぼり掛ると上に……其頂上に」

十九頁「鬼だ……鬼……鬼か……人か……鬼……鬼」

又五月蠅迄にクドキ言葉或は無用文字多し例へば

八頁「夕立の降た並木……てッ毛の中から雨の樣に涙がバラバラ」

十頁「今迄は悲哀の極點に達して居た情も此景色を見たら次第に消たすると景の美が初めて目に染込んだ勿論此悲哀の念が胸中に消て景色の美が感じた變化は急に起つたのではない」

四十一頁「政治小說の廣告文ではないが世間絶無……定めし人をして泣かしめ心をして慄はしむるといふ樣な一塲の物語が有ろうだ」

五十一頁「オット悪かつたつまらん事から話がすべつて飛でもない事を言た眞平御免下さい讀者諸君」

七十二頁「アノ今頭上だけ黑く見ゑて居る古塔」

備て是よりは次第々々に評判ジヤ

三頁「眞白な温い雪の肩」とありシテ見ればリーホンは肌を脫いて居たと見ゑます

五頁「星がそろ〳〵空から笑ひながら瞬き出した實に靜だ」云々笑つて出たなら靜でもあるまい賑かなのが當り前

十三頁「自分の調べて居る「バイオリン」の面白さに其處も恍惚と通つてしまつた」云ゝ全躰月に浮れて出掛けたのですが歩行きながら彈じてはチット新内のながし然たり

十八頁「一輛の車があつた其上に箱がある……其箱の中へアラ無殘な」云ゝなんぼでも是では大殺しめきて可笑

十九頁二行目に「夜は次第に更けて來た」とあり七行目に「夜はます〳〵更けて來た」とありシテ見れば早くて十二時頃かとも思はるゝに二十一頁に「あの鐘十時だろう」とありあんまり大業ジヤありませんか其次の行に「裏の森に「ナイチンゲール」の悪戯の聲が耳立つて聞ゑる」とあり「ナイチンゲール」の性質は知りませんが「ます〳〵更けて來た」夜に騷くものですか如何

廿二頁「バイオリンを持て御出なすつたぎり」云々「御出」ヲ「をいで」と振假名つきたれども是では外へ出し事より寧ろ内に來りしと云ふ意ヲ聞ゆ曾て築地在留のある外國紳士を訪ひ坐敷にて談話の折戸を叩きし者ありしに紳士は「お入り」と言ひたり是は申す迄もなく Come in を譯したるものなれど同じくは「おはいり」と言ひたき

廿六頁「うれども世間はよく流行する拐騙に」とあり是では世間が拐かされる如く聞ゆ「世間に」と改めては如何

廿七頁「恨めしい神樣。ソー」とあり小供ではあるまいし呼んで發に到ると失笑致します

廿八頁「五濁の極樂」とあり然るに十一頁に「五濁の下界」とあり五濁とは如何なる者か著者に質さん

「下界を射潰す鼠の眼」とは新文句「よらみつぶす」としてはどうでせう

卅五頁「アゝ。いゝゑ。うんな事」とは理に合はぬ返事「男を憶ゑたナ」と云ふ問に「アゝ」とは奇ではありませんか若しリーホンが潔白ならゴータアの言葉に「手前」の語あり其振假名に「てまい」とあれど「てめへ」とする方よし同じく四十六頁の「大笑」ヲは「をゝわらひ」とするよりも「をゝわれへ」とする方惡者らし

四十七頁「男の手に散る露。地に落る音は聞へないが、鳴て居た蟋蟀。止めた聲に氣が附ないが」云々是は對句にしたのでせうが意が通ぜぬ今一應再考あらまほし

四十九頁「此時計…チョッ黄金だ。我慢してやれ」前后の意味より考ふれば想像より持物が少ないが我慢してやれと云ふ事でせうが是れ計りで考ふれば黄金だが我慢して取るまいと云ふ義ヲ思はる

六十五頁「爆裂藥を用ゐた樣に感じた」尾崎紅葉氏が曾て笛の音が胸に釘を打たれる樣に感じたといふと怪まれたが爆裂藥とは一層不思議若し用ゐたら粉粹となつて感じもなにもあるまい

六十六頁「其リーホンと云のは私の最愛の孃で」此娘は Girl の意でせうがドウモ聞取れぬ三頁にも「此娘は間性の娘ではない」とありしが意味が異ふにもせよ同じ娘と云ふ字を重用する面白からず

七十三頁「私は旅の者……今悪者が息を切らしてあわてゝ飛込んだ者が」私は旅の者とはチト餘計ではありませんか

以上は通讀の折氣附きしまゝ總じて申せば毎回の趣向同一轍にして一回にてリーホンがキャット言ひ二回にてゴータアが鼻から血をだら〳〵三回にてスウキシトが草の上へドサリ四回にてはチッシー夫婦が水音高く落入つたり其結末は古めかしい「新聞の雜報」ソレニ其文の平手加減東京の輸入新聞はモット上手なるが羅馬の新聞はこんなもんですか。

叢話

○結婚と死去と何れか祝すべき　是空子

一女友余に英文の書を送りたる中に、右の如き問を立てゝ申し越したる樣、

過夜某氏の婚姻ありて妾わも參會し侍りぬ、殊の外盛んなる集まりなりしが、此に一つの疑がひ起り候、あゝ吾が友人よ、抑も婚姻とは未だ試みざるの旅、未だ經ざるの試驗にては候はずや、よし五十年の浮世の旅行を終り、兩々ともに顧りみて一代の幸福を想ひ起すとわらんには、彼の婚姻の當日即はち此の幸福に入りたるの初日こそ、固より深く祝すべき紀念の日にて候ふべし、然し妾わにして之を思へば、彼の基督敎徒永眠の日ぞ、更らに之れよりも眞實よ熱心に祝賀すべきとは存じ侍る、蓋は此の永眠の夕べは即はち天の住ひに入るの曉にして、此時初めて罪なき地上の境界に生れ出でたるゆへ也、左らば何故に臨終に際し、一家相集つて喜びの宴を開かざる、自から省みて其理を得ずほど〳〵解し兼ね候。

余は此の女史の心裏極めて温かに、腦裏極めて冷やかなるを知り、又此時其の情知の極めてはげしく戰鬪するを察して、則はち靜かに答へ遣はしけるは、

汚濁姦惡なる此の人間世界に於て、二つの身一躰となり、二つの魂しひ一體となるは、何等高尚美絶の事ぞや、眞正の婚姻は、市場利に爭ふ中に二人固く交はるが如く、戰場尸山を爲す巓に二人固く交わるが如し、而して死して天境に入るは悠々遥々、塵毫の故障なきに漠天地に花を見るが如し、此は自然にして固より危ぶむ所ろなく、彼は甚はだ險にして危ぶむ所多し、既に危うきの間だに立ちて共に和樂琴瑟を盟うを得る何等の祝すべきとぞ、既に自然にして危うきを見ず自から此の境ひよ入るを祝するは少しく怯なるに似り、余もし死せば將に眠らんとする時謳んで走場を畢りたるを謝すべし敢て祝せず、余もし婚姻するとわらば將に握手せんとする時深く之に祝す如此き吾等よく此如く交わるとを得るを祝する也、女學子云く樂しきは尙ほ悲しければ也、祝するは尙ほ危ふければ也、天國の界無爲にして存す、空々漠々」と

○爲すべきの天命　もみぢ

同一の月なり、其の登るときは血の如くに赤く、中天に至れば銀の如くに白く、將に沒せんとするや玉露を散じて悲し、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

而して其の雲を彩する所ろ、其の水に映ずる所ろ、其の玉臺茅屋を照らす所ろ、皆な悉く異なる。同一の火なり、嘗ては鹿鳴館和樂洋々たるの豪遊を寫し、又た村家の一族餓に苦しんで沈吟するの慘狀を示し、又た兩軍天に叫んで矛を交ゆるの前面に燃へたり。而して此月此火皆同一にして固より優劣するを見ず、人も亦た蓋し如此き歟、講壇に立つて說敎する所ろの宣敎師は、必しも入口に立つて穿物を番するの老人に優らず、四輛の馬車を驅つて叱咤するの英雄は必しも路傍にマッチを賣るの老婦人に優らず、彼等均しく一個の靈を存す、何人か能く之を奪ふものあらんや。功名富貴若長在、漢水亦應西北流、吾人はたゞ命を守りて、爲すべき丈けの務を爲すにあるのみ。

評に云、天下の姉妹希はくは徒らに慷慨する勿れ、家庭に靜かに勞働するを卑しむ勿れ。

○婦人の德は余韻に在り　　かすみ

去る十七日中島俊子の君妾等が設くる文學會に於て一席の演說を爲し玉わりしが、其の聲音鈴を振る如く、眞情一語一語に溢れて、心の最底を穿たれたり。聽聞中は、仰いで只だ其風采を觀、伏して只其聲をきゝ、殆んど一時間茫として夢みるが如くに感じ候、左れば兼て悉く之を筆記せよとの御賴みを受け乍ら、後に至りてたゞ〳〵左の大略をのみ思ひ出し、扨ては先づ之れのみを記して差上候。

女學雜誌記者先生御許　　明治女學校文學會員某

只今皆樣の演說なり文章なりを拜聽しまして、眞とに一言も御座りません。私方に色々の人が參りまするが、其中主も地方の人が多く參りまして申すのには、女學が此のやうに盛んになつて誰も彼も娘を女學校に入れるとなれど、どうも其の學んだる書生を見ると甚いだ感心しない、寧ろ學ばざつた昔しの女、吾々のお母さんやお婆さんの風が好ましいと申すのを、度々聞ますが、若し其樣な人に今日の樣な有樣を見せたらば必らず其說を變たでありませう、實に此の如き所ろに連て來て見せられませなかつたが殘念であります。斯樣に皆樣は甚いだお立派に出來ましたが、然しアナタ方は必らず尙ほお進みなさると信じます、更らに大ひに進步なさると信じます、之はアナタ方の今日に尙足らぬ所が多くあると申すのではなく、即ち左樣に進步するが日本の婦人の尤も長じたる所と思ふ故であります。兎角西洋歸りの人々が、日本の婦人はイカヌ、學問が無い、技藝が

球といと、一槪に惡口せられまするが、然し其の大ひに西洋に劣つて居るものは日本に澤山あります、凡そ日本と云ふ冠詞の着たは大抵皆な宜しくないので、日本のと云へば既でに不完全と云ふような意味を以て居るのであります。

然し日本の婦人はイカンと云ふのは實に思はない言葉で、之は不滿に堪へぬ論です、日本の婦人に固より足らぬ所ろがありませう、然し亦た大ひに優る所ろがあります、即はち其の進歩する、大ひに進歩するの力を持つて居ると云ふのが、日本婦人の長所の一つであらうと思ひます、夫故アナタ方も之より、大ひにお進みなさると信じますので、亦其のお進みなさるを願うのです。（未完）

○女子看護法の心得（廿三）華族女學校教授　津田梅子

ナイチンゲール孃の事　看護の事に就ては「フローレンス、ナイチンゲール」孃の事より話し初めるは不適當でもございません「ナイチンゲール」孃の行は後世の摸範となり人の心に此人のようある貴き働きを爲さんとする志しを引き起させます扨「フローレンス、ナイチンゲール」孃は數年間彼れの父の屋敷内に假ずまゐして居る貧窮なる人々の内に看護の業をされて居りましたが折節「クライミヤ」の戰爭が始まり英國の兵卒數千人は戰場にて看護の足ぬところにより命を失ひければ遂に看護者一隊を戰地へ遣すことに決せられました此時看護に經驗ある者にて全隊の指揮者と爲り得べき者を尋ねたるに一人の婦人を搜し得ました其者は永く貧人の爲め又病者の爲めに働き且つ多くの病院にも出入して數年看護の業に從事して之に達したる人即「ミス、フローレンス、ナイチンゲル」でございました氏は此務めを引受け看護婦一隊の長として直に戰地に出立されました是等の人々が戰地に達したる時は實に其場の有様は思ひの外に酷うございました是れより其人々は晝夜の別なく或は苦しむ者を助け死する者を慰さめ退屈なる病人の爲には心を樂ませる物を讀みきかせ或は兵卒に代りて手紙を書き送り又は重き手傷を負ひたる者を取扱ひ苦痛する者には心を傷め死する者には身を割くばかりの思を爲し己れを捨て身を忘れ馴れぬ土地をも顧みず勇氣を揮つて働かれし此人々の名は後世までも言傳へられ談の種とは爲りました。

○女生の運動……羽子板遊

承はるに、府下の明治女學校に於ては、船越鼎太郎氏の考案によりて、羽子板遊びの新躰を工風し、生徒運動の一助とせらるゝよし、而して其の新躰數多ある中の二三を申せば、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

（第一）沓かむり

此は甲乙丙と三人又は何人にても一方に並び先方に線を引いて判事其の向ふに立ち扨て三人羽を銜き乍ら競ひて向ひの線迄で早く到着したるを勝とす。

（判）……　甲乙丙

（第二）源平追羽

此は甲乙丙丁の四人源氏と爲りて一側に並らび、イロハニの四人平氏と爲りて亦た一側に並び、扨て判事の合圖により、丁及びニよりそれ〳〵羽を打出して次へ〳〵と追ひ、可成早く終極に到着したるを勝とす、尤も源平の四人それ〳〵其の立つ所ろの地を變へざるとは勿論なり。

（判）
甲乙丙丁
イロハニ

右は源平二側に並ぶとなれども、或は又た源平入れまじることし、例へば甲ロ丙ニを源とし、イ乙ハ丁を平とし、入れ交へて羽を追ふも亦た一興なり。

（第三）花ぐるま

此は判事を中に置き周圍に若干の環を地上に畫き、環の大さは直徑二尺位ひ環と環との隔

㊂ロ　○イ
○ハ　（判）　㊀ヘ
㊁ニ　○ホ

たりは半間ほどづゝとして、扨て此の環若し六つありとせば甲乙丙の三人圖の如く一つ置きに環の中に立ち、判事の合圖に發して各羽をつき乍ら飛びつゝ廻る也、即ち甲が羽を銜き乍らイの環へ飛ぶときは、乙は亦同じくしてハの環に飛び、丙亦たホの所ろへ飛び、斯くして順次に間斷なく廻り行けば勝敗なき也、然し羽を銜くはたゞ此の環の內に在る時計りなれば、環より環に飛移る間だに自然羽を落すとあり、或は羽を受んとして止を得ず次の環に移りがたきとあり、其時は即ち次の追手に追かけられたるものにして負なり、負たるものは一回環の外に外づされて、一番後れたるの罰を受く、即はち後なるもの先となり、先なるもの後とある極めて面白く氣の毒なるもの也。

（第四）はさま合戰

此は源平二つに分れ、先づ源氏の味方十二人左右に分れ、大抵二間を隔てゝ左右に對し列す、平家の族は一人づゝ其の谷間を通り、羽を銜き乍ら揚々として先方へ趣むくとにて、若し終極まで到着すれば勝なり、然し其羽少しにても傍わ

○○○○○
（判）　△
○○○○○

らによらば左右の剛の者はすぐさまに之を分取りにすべし扨て通り損じたる兵卒は打死として除かれ、アッパレ先途に達したるものは敵一人を追のけて己れ其の地に入り、次に同族が羽を銜き來る節之を妨げざるなり、即ち之を妨ぐるの一人を先づ殺ろし置くなり。

此外尚多けれども趣向は大略右の如し、實際に試むるに隨分に面白きよう也。羽子板の遊びは、胸膈を開き、視力を強くす、と漢方めきて言はざるとも、先づ女生徒には甚はだ適當したる温厚の運動なる也。

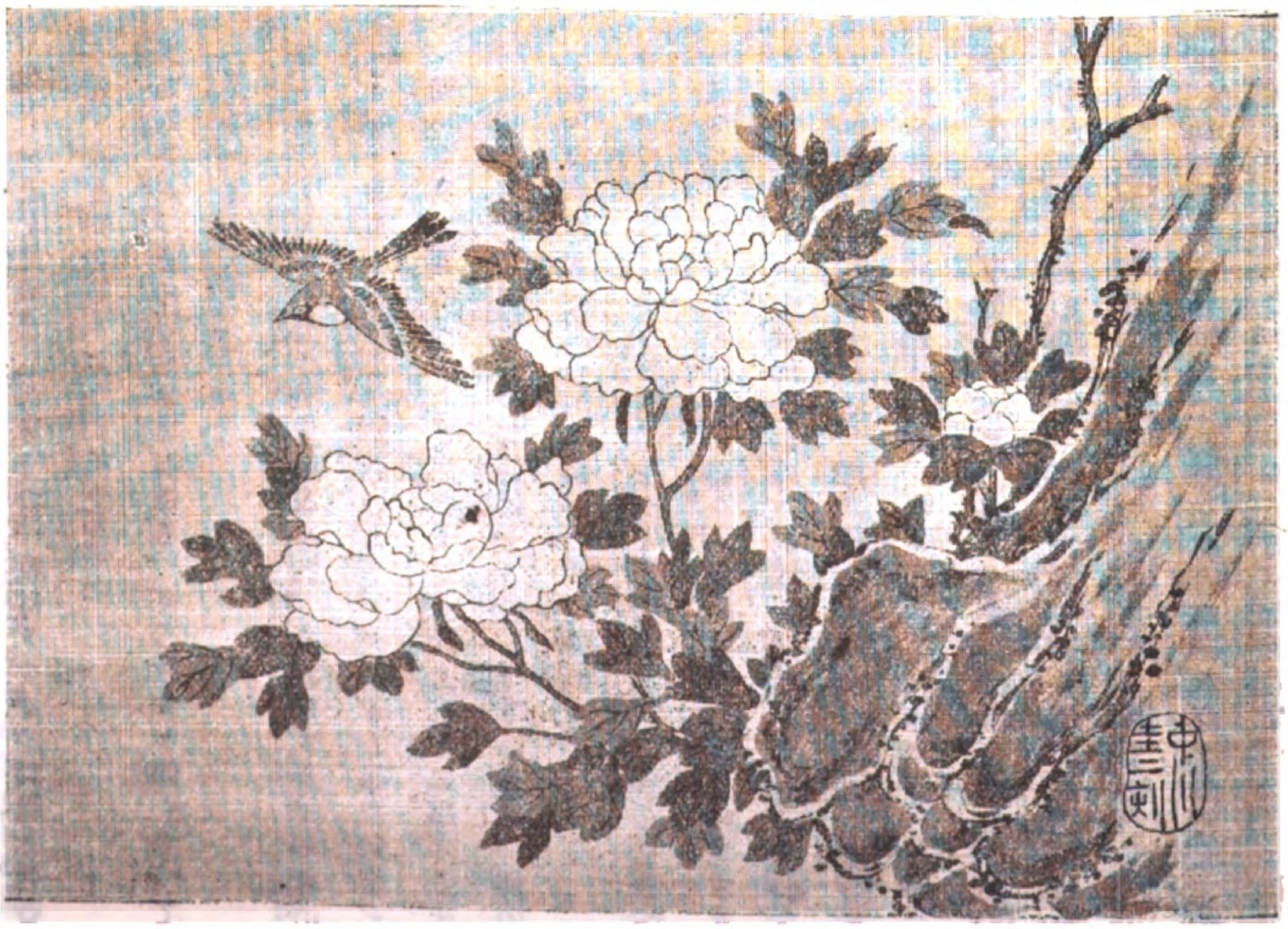
小說

○哲女の巻

(第八回)　乙女　(上)　　月の舍忍

チヤ、危なう御座います、サ、私しの手をお執なさいまし、よろしう御座いますか、チットお危……

病ひに窶れたるか、左なきだに青き容色のいよ／＼青くして、左なきだに嚴めしき面貌のます／＼嚴めしうは見られ乍ら、友人の切なる慰さめに何となう心浮くらん、重々しき微笑を大理石の顔ばせに彫み付つゝ、足を踏固て緩やかに散歩する



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は彼四條の哲女なり、いたわり〳〵掛念しつゝ其傍わらに沿ひ、今しも彼女の手を執りて最と愛らしく介抱するは、昨日當家に來着したる無極が孤女にして父には似ざる好子なり、而して家は青山剛の邸なるべし、麹町區一番町の端れ、町盡き池水靜かに眠る畔りに、住宅極めて狹くして庭園の割りに廣ろやかなる一構へなり。二孃は晝間の炎暑を庭園の外に拂らひ、皎たる明月を庭の木梢に迎へて、木々の間だを過り、地上の木影を踏み分つゝ、漸やく奧まりたる叢の邊りに到りぬ。

サ、ちつと此處でお休みなさいませんか。

言わるゝまゝに哲女は靜かに腰を掛けぬ、而して無言あり、然も何をか切りに考ふる如くあれば、好はたゞ之を慰さめんとて一層親しげにして、

お冷なさりはしませぬ、アナタ。

イヽエ、丁度すゞしくて好う御座います。

アレマア御覽遊ばせ、あの木の間〳〵から月の見へまする景色の、ほんとにどうしてマアあのように淸いのでせう。

ほんにネー。

夫につけても思ひ出しますが、何故私の父はあのような恐ろしいことを計畫ましたらうか、私はアナタのお顏を見ると、身を切らるゝように存じます。

又お好さん、その事をお言なさる、どうぞモウ仰しやつて下さいますな。

アヽそう〳〵實に惡う御座いました、それでアナタのお心を痛めましては尙惡う御座います、デスがあなた何卒ぞ切めて父の罪ほろぼしと思召して、此上は私に出來る丈けの事をしてアナタのお助けをさせて下さいませ、何のやうな事でもいたしますから、子、アナタ。

アイ、有難う……よう其樣に思つて下さいます、私しでさへ叔父を失なつたと思へば心さみしいように思ふのですものを、アナタは何れ程お心ぼそひか知れません、之からは切度同胞のように思つて、御一處に何かを仕てまゐりませうよ。

勿躰ない、どうしてアナタを姉さまと思はれませう、ガどうか私しは妹と思つて、何も遠慮なさらずにお命いつけなすつたり、そしてアノ叱つたりして下さいませ。

好は密かに傍はらを向きて眼ことを磨りぬ、哲は沈默として暫らく天を望み居たるが、又漸やく語ばを發して、

好さん、青山さんのお歸りが大層遲いようですが、今日は何處へ行しつたのですか。

何んでも、向島とか云ひます所ろの藤井さまとやらへ行つしやるッテ、お母さまにお話しでしたが、何ですかァナタの事を聞いて來なくてはと仰しやつて居らつしたのを承はりました。

そうですか、道理で、何日になく何とも仰しやらずにお出なすつたと思ひました。

哲の垂頭れて考ふるさまあるを見て、好は少しく勇を鼓し、

私はまだしみじみとお話しもしませんが、青山さんは實に類ひないゼントルメン(紳士)で居つしやいますチー。

而して哲學者です(哲は語を補ふたり)。

さうです、あれ程の學者で、特に哲學などに熱心な方は兎かく冷淡なものですのに、青山さんは其上實に信切で居つしやいますチー。

其上餘程義に勇さむ人です(再たび哲は補なひたり)。

さうのようで御座います、夫れに質素な飾らない生計に安んじて居らつして、其中であのお母さまに孝行なさる所を見ると私は實にうらやましひように思ひます。

お若いには珍らしひですチ(三たび哲は補ひたり)。

小供らしき恥かはし氣なる好娘も、此に至つて少しく哲が心裏を推し、彼女は最と冷然として物語るにも拘はらず、己れ先づ面てを赤うして何やらん口隱りたるが、蓋し哲を思ふの愛情は、いよ〳〵以て青山の人と爲りに敬服せしめ、此の親愛はます〳〵其の敬服する所ろの人を近う引寄せて、彼が淡如たる情海に端なくすでに一种の伉儷を理想したり、則ち更に面てを赤うし息氣を迫らせつゝ、哲を見れば、彼女は極めて冷淡なるが如し、然し漸やくに復た勇を鼓して、

アナタも、あの樣な友人のおわんなさるのが、まだしもの御安心でせう、私しも實にうれしう存じます。

實に好い友人です、其の信切は實に謝さなくてはなりません。

私しまで一層、力を得た心持がしますワ。

デスが、其の信切なるゆへに、お好さん、私しは迚も此處に居るとが出來ません。

愕然として好は驚ろいたり、

なぜ、なぜで、御座いますか。

アナタには何もかくしませんが、もしアナタが私しにお助

けをして下さるのならば、何卒か此處を一處に出て下さいませんか、

一層に喫驚して好は、其儘哲の面てを見凝めたり。

佳傳

○佳傳の功德

吾人の信仰する所ろによれば、凡そ此世に起り來る萬物は、惣べて人間に可らざるはなしと思ふです、たとひ病ひと云へども、たとひ疾苦と云へども、尙ほ其の世に存するの理由ありて、隨つて其の存するの功德あるです。左れば况んや人間が此世に於て榮枯盛衰するの變轉、もしくは此の榮枯盛衰の間だに身を處したるの行狀等は、たとひ其の惡事にあれ善行にもあれ、若し之を見るべきの日を以て見るときは、皆な必らず其間だに大ひなる敎しへを存するです、况んや尙ほ、世に聖人として、義人として、現はれ來たりたる人の如きは、之が爲めに世上の敎へとなつて、人間世界に功德を生ずるは實に莫大のものである。

故に世に現はれたる聖人義人の言行は、成るべく多くの人に知られ見られて、而して成るべく多く其の功德を盡くすように致させたいとて、此に於てか傳紀と申すものが甚れだ世に大切となるです、若し論語と云ふ書物が無つたらば、孔子の感化は或は周一代にて消失せたかも知れぬ、若し聖書と云ふ書物が有らざりしならば、基督の感化も或は亦た今日の日本に迄で及ばざりしかも知れぬ、然るに孔子の德二千年來日本に行はれ、基督の感化も今や大ひに我國に迄で流行せんとするに至りたるは、必竟論語と云ひ聖書と云ふ其の傳紀ようのものが世に存したるの力らに因るです。

左れば傳紀は、人の言行を永遠に遺すの寫眞で、其の言行の感化を永遠に四方に傳播するの代言者で、言へば道德上有力なる雛形、手本、敎師、であるです。而して物の規則は素と甚れだ淡泊なもので、之を聞けば極めて分り切つたものであるが、扨て之を實際に行ふときは非常に六かしいのである、故に善は爲せよ惡は爲すなよと云ふ律法は只だの一句であるが、孔子七十年の言行は、即ち此一句を實地に經驗したる難行苦行の學歷史で、基督三十年の說敎は即ち亦此の一句を人に實行せしむるの工風を說き示されたのである。故に物の本に於て道德の敎へを聞くのみでは役に立たぬ、固より自分が先づ之を實行して見あくては成らぬが、扨て之を實行するに付

ては、即はち古人先人が勉强して之を實行したるの跡を見るのが大ひなる敎師となるです、即はち此の實行したるの跡を書とめたるが傳記と云ふのである。

此の故に吾人は女學雜誌に毎號佳傳の一欄を設け、初號より今號まで、大抵毎號に有益淸潔なる實歷史を載せたる心得でありまするが、此后とても又いよ〳〵之を載せる積りで、即はち天の命を受けて世の道德の敎師として生れたる人の言行をば、決して沒すまじとの覺悟でありまするが、此に現に致し方なく其の言行の沒しつゝ行く者のあるとを思ふて、大ひに嘆息のあまり四方の讀者諸君に御相談申す一條あり。

夫は凡そ西洋日本の書籍に殘りたるか、又は世に甚はだ有名とありし人の言行は固より吾人の鈍き目と耳にも明らかに見聞いたさるゝとなるが、現に今の日本に於て、而も片田舍の茅屋の内などに於て、一生を至純至潔にくらし、其の言行大ひに世の敎へとなる如き御婦人方にして、生きては人に知られず、死しても亦た傳せらるゝなきお方甚はだ多からんと存ずるとて、之れ實に遺憾千萬の次第であると思ふ。人の道德は世に聞えざる所ろにあるもので、彼の富み榮えたる境界には隨分に少ないものです、われ〳〵は何々村の何の妻にして、一生過まちなく死せりと申す如き人あらば、直ちに走り行きてなり其の敎へを傳したく切望するものであるです。

故に此の考へに御賛成の人々は何后成るべく其地方々々の佳傳を報ぜられんとを乞ふ、傳せらるゝ人にして、若し村女老婢われなる物賣りの女等ならばいよ〳〵善し、何んとなれば斯る人はいよ〳〵以て世に知られざりし人にて、而も其の一生の道德の戰かひは、實に目覺しかりしものあらんゆへなり。

然し此に注意すべきは、吾人の佳傳を惜しみ又尊とむは前申す如き考へによるとなれば、之を大袈裟に書くと、之を誤まり記るすと、即はち元來天命を受けて自然に現はれ存せざりし所ろの言行をば、人の淸からざる思ひにて製造して傳したるときは、之れ瓦片、玉をかくすものにて反つて大なる害を出すにより、傳する人はゆめ〳〵此の如き誤まりに陷いらず、謹んで其の眞を寫し、只だ自然の人物論を精細に寫眞するとの覺悟を有すべき筈です。

エホバハもろ〳〵の國のあいだを鞫き、おほくの民をせめたまはん、斯くてかれらハその劍をうちかへて鋤となし、その鎗をうちかへて鎌となし、國にむかひて劍をあげず、戰鬪のことを再びまなばざるべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

寄書

○角田宗匠の近詠

角田眞平君より熊本へ向けての書狀の末に同宗匠の近詠として左の二句を贈られたり。

不景氣の逃て仕舞し祭哉

惡からはくびの短かき花火哉

○女學校々長諸氏に哀願す　　星野天狗樵夫

不愉の睡覺は邪慳なる「ベル」に追立てられて、哀別離苦の愁嘆場を演するより以來、醒醒として教場に腦髓を沸騰せしめ、終日の日課終れば、「ルーム」に歸て直に又机に向て寂莫たり、あゝ今日の草臥を慰むる愛物ハ何物ぞ我れハ「ホーム」の幸福を受ると能へざるか、今日の「レッソン」の復習は後ろにある、明日の「レッソン」の準備は前に我れを責む、終始循環腦髓場裡休戰なし、縱令一週に一日の休暇ありと雖とも、動けば則ち風を生じ、歩めば則ち塵を動かす、休課毎に必す外出散鬱せんとすれば、「エム」は急を我れに訴ふるを如何せん、實に人間の「ウヰル」は妙なもので此校内に起居して校則吾が身躰を縛すると思へば、何となく樂みの幾分を減じ去られ、此書生の位置に立て見ると、外觀すると違て一種異樣の不平が生じ、從て快樂ハ「イーチング」上に傾き、我れながら可笑程三度の「ベル」が待遠な心持がする、此に於てか諸校に賄征伐の弊絶へざるものであろう此等ハ男書生の實驗說である、淑德ある女生諸君は固より賄征伐のあるべき筈はないが、其感情は同じてあろう、予は御自分に詰まされたる感情より、最も食糧の腦髓消費者に重要なるを感じ、殊に衰弱せる日本婦人に、殊に當飼料に甘從せる女生諸君に慇然なる一臂を添へんとするものである、或女校の如きは疾くより食料改良に注意する、或女校の如きは甚た感心しない不注意もある、各校長諸氏の存意は固より注意の積りでもあろうが、賄方は固より躰育が目的でない、全く知らないのである、魚は魚でも、ビーフはビーフでも、飯は飯でも、表面調査は立派でも、古い、剛い、臭い等の内實は校長さんは御存じない苟も生徒は校長の赤子である己れも共に此膳を味へずんば、未だ注意の眞價は定むべからずである、知らずや其弊は流れて芋屋の繁昌となり、菓子屋の御花主と成る、其弊の原因は校長自らの不注意にあるを知らず、臨時内則を發布して、芋屋菓子屋に撿束を行ふ、所謂民の口を縫付るもの、生徒の快樂を完ふせしめさるもの、抑ゝ不平を起す原因の一種子となる、是れ程の衛生的を御存じならば何ぞ大に食料改良不潔刪除の戰斷を取らざる、

予は次ぎより乞はんとす、男書生にハ運動會あり、遠足會あり、行軍會あり、レースポート、劍術、レースボールあり、遊ぶに自ら道あり、腦髓の散鬱、運動の躰育、智識の發達、皆夥ありと稱する所にはあらずや、唯怪しむ此議論は何ろ獨り男生社會のみなるかを、然れとも予は此等を以て離用を乞ふものではない、女子適當のとがあるであろう、則ち春にハ草を拾ふ郊外の散歩、夏には凉を呼ぶ水邊の戯れ、秋にハ花を集むる金風の放牧、歸てハ記文を綴へし歌句を練る、其他の遊び多かるべし、以て躰育に、散鬱に、智識に、男書生に於ける諸運動の如くあれ、之れを爲すと月に一二回、教員之れを監督すれば、誤も亦なかるべく生徒の慰みも付くべく、不平の種子、愚痴の小言、減少するであろう、故に之れを實行するにハ、生徒間に勢力ある運動的を含める會を立て、校長も之れを奬勵せざるを得すの塲合である。

次ぎに又乞ハんとす、諸校にハ皆、某々會、何々會と、討論演說等の目的なる文學的の會ハあるなれども、願くハ此規模を擴め、勢力を增し、以て一の倶樂部を設けざるべからすであると斷言す、之れハ男生徒社會にも必要なるものである、必竟一週一日の貴重なる休課日を、充分に利用するとの出來ないのハ、腦髓上躰育上大なる一害である、愉快實利の遊法が出來ないからであろう、然るに一の倶樂部あらハ「イーチング」奴隸の慘狀もなくなるであろう、充分の愉快、充分の樂み充分の滿足を以て勉强するとが出來るとハ疑もないとである、而して多く建てゝある微々たる文學上の小會も、運動的の小會も、皆此倶樂部の一機關としたならば、勢力强く必す盛んに實行して有名無實の如きとハない、校長諸氏よ、予ハ涙を以て、日本女子の爲め日本男子の爲め、日本國の爲め、食料、運動、倶樂部即ち躰育のとを以て、謹で建言し挙る、採るべきものあらば之れを採れ、是れ予が本意なり、之れ予が誠意なり。

新報

（此欄内自由に轉載を許す）

○禁酒事業の勢力

日本に於て禁酒事業の益す盛大となり行くを見ては、吾人は彼の萬國婦人禁酒會の標語の如く、即ハち神と國と家（ホーム）との爲に大盡せざる可らず、而して此の禁酒事業に就ては、基督敎徒も、佛敎徒も、無宗敎の人も、學者も、北海の島民も、ハワイの移住民も、女も老人も男も、皆一齊に說を同ふして盡力するが故に、其の事業の進歩如此く大なるを得る、是れぞ道の爲に更らに大ひに賀すべきもの也。此頃南洋濠洲第一殖民地に於て、開設以后の百年紀を祝してメルボルン府に萬國博覽會を開き、同時に萬國禁酒公會を開かるゝ由に付てハ、西京反省會の會員よりして、日本禁酒事業の運動と題する長篇の報告書を寄贈せられたる趣き、而して其報告の事項は大略左の如くなりしと云へり。

大日本節酒會。布哇日本人禁酒會。北海禁酒會。東京婦人矯風會及び之に連絡する各地の禁酒矯風會。反省會。

禁酒上功勞あるの雜誌として殖業雜誌、女學雜誌。

禁酒節酒の主張者として津田仙氏、加藤弘之氏、中村正直氏。

基督敎、佛敎。

吾人實に之を祝す。

○年始御歌題

例の如く來年年始の御歌題定まつて、公告せられたり、吾人近年の御歌題名を一表にして拜見するに、

明治十一年　鶯入新年語　　明治十二年　新年祝言
同十三年　庭上鶴馴　　同十四年　竹有佳色
同十五年　河水久澄　　同十六年　四海清
同十七年　晴天鶴　　同十八年　雪中早梅
同十九年　緑竹年久　　同二十年　池水波靜
同廿一年　雪埋松　　同廿二年　水石久契

吾人は「將來の和歌」に於て希望したるが如き愚考を有するが以て、宮庭の御歌題に注意し挙りて、感觸からざるもの也。

○女子職業學校

女子職業の事に付ては、前號ゝ於て一言したる通り也、故に吾人は之が爲めに東京女子職業學校の運動に注意すると尤も切なり、此頃同校第二學年（二十年九月より廿一年八月迄）の報告書を得たるに、其中に云く、

生徒入退學　第一學年末には生徒總人員甲科に百〇五人、乙科に百十二人、總計二百十七人なりき、第二學年内には入學者甲科に百十一人、乙科に百四十八人、卒業生甲科に四人、乙科に二十四人なり又退學者は甲科八十九人、乙科に百三十三人あり此の如く退學者の多きは授業上の不便少からされども女子は特に家事の係累多きが故に亦止むを得ざるに由るならん第二學年末に於ては生徒の數は甲科に百二十二人、乙科ゝ百〇四人にして總員二百二十六人なり。

術科　多くの女子を養成して各々自活の道を得せしめんには女子に適する技術ゝして最も需用多き者を授けざるべからず故ゝ當校は專ら此主旨に基きて技藝を擇み即ち裁縫、飾帽、編物、縫取、圖畫（模様畫、陶器畫、形紙彫り方）造花等の術科を受く。

卒業生　明治二十年八月に卒業せし者乙科裁縫に九名同編物に九名同刺繍に一名二十一年四月に卒業せし者乙科裁縫に一名同年八月に卒業せる者甲科裁縫に三名同編物に一名乙科裁縫に十五名同編物に四名同刺繍に二名同圖畫ゝ二名にして總計四十七名内三名は地方の學校に九名は當校に於て職を執れり以て同校の景況一斑を推知すべし。

○娼妓の廢業

新聞紙の報ずる所ろによれば云く、

尾州名古屋の妓樓井筒にては本年五月中鬼頭八重（十八）を前借金四百圓にて娼妓に抱へたるが營業する事僅か三四日間にして突然廢業を申出で且つ前借金は正業に復し營利の後返償すべしと云」井筒樓主は娼妓營業は貸金の抵當なれば其求めに應ぜざりし」により八重は主人に係り始審裁判所に廢業差拒み排斥の訴を爲し審問の末娼妓營業は借金の抵當なれば借用金を完濟せざる間は廢業を爲さんとの請求相立ず」との裁判ありしも八重ハ其裁判に服せず控訴院へ控訴に及びたる所此程同院にては樓主にて貸金あるも本人八重が娼妓ハ醜業なれば之を恥て廢業せんと云ふに强て其廢業を拒むに於てハ結局公力を以てせざれば營業を爲さしむる能ハず果して然らば遂に人身賣買の法律を犯して執行せざるを得ず斯の如きハ到底爲し能はざれば始審の裁判を取消し八重の請求に應じて廢業せしめ貸金ハ更に請求するは格別なり」との判決ゝて八重の勝訴となりたるよし

此の裁判の正否は大ひに議論あるべし、たゞ人身抵當、人身賣買の陋習を打破するには、近來無類の面白き出來事なりし。

○外女客　米國モントリール、スター新聞の特別通信員ダンカン孃トロント井ーク新聞の特別通信員レウイス孃は過日來着ありぬ、社員が横濱のグランドホテルに訪ひたる節は折あしく上京不在中なりし、何れ他日面晤の上更らに記載すべきが、兩孃ともに麻布鳥居坂の英和女學校に來らるべしとの說ある由に聞けり。

○高等師範學校女子部　同部の卒業生は是迄にて都合二百四十八人あるよし吾人は右卒業生卒業后の義務は一ヶ同校に報告せらるべき内規と承わり過日行て之を問ひたれども一向に分らざりし雖し明治十九年文部大臣の告示もありて同卒業生は一々教務情況等を報道すべき筈なれども現に其の如くにせらるゝは少しと也、扨て同部現今の生徒は六十名あり來年四月ゝは小學師範科の卒業生四名あり廿三年四月には高等師範科生十三名並二十四年ゝは同じく二十七名の卒業生あるべき筈の由なり、蓋し全部四年級に分れ每年二十五名づゝの募集なれば例定の通りなれば二十三年より年々二十五名づゝの卒業生ある割と承はる。今月一日より補欠員七名に對して入校試驗せられたるに申込人意外に少なく僅かに十七人ありし由而して試驗最終の日迄で引つゞき受驗したるは九名なるよし何れ今月末迄には其合格者相定まるべしと云々

○明治女學校文學會　同會員は每金曜日に二三人づゝの演說と若しくは文章朗讀あり而して月一回づゝ中會を開かるゝ由にて去十七日には則ハち其の催しあり種々の文章詩歌演說奏樂等ありし后ち中島俊子夫人の演說ありしとぞ。

○看護婦練習學校　日本赤十字社にては社業の擴張するに從ひ漸次各地方へ支社を設け且つ附屬病院をも設立し不時に於ては負傷者等の看護を爲すの計畫にて先づ第一着に看護婦練習學校を設立せんとて專ら軍人家屬の寡婦貞女等を募集して之を養成せんとの說を社員中にて主張せらるゝ者多しと云ふ。

○音樂會　露國の女優クラヴトソフ及びヴ井ッウ井ッスカイの二女は此度日本に渡來せられ横濱のグランド、ホテルに宿泊中なるが去る一日の夜山手公會堂ゝ於て音樂會を催ふしたる由なるが其の彈琴歌は實に巧妙にして聽衆の心耳を醒しめたりと云ふ。

○女生徒の體格檢査　一ッ橋外なる高等女學校の生徒は醫科大學の醫學士三輪德寬氏及び今回歸朝せられたる小兒科專門ドクトル加藤照麿氏が擔任にて去る十五

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日より妹格撿査を施行せり。

○宗教學校は屆捨にして可なり　本月一日發兌の福備日々新聞を閲みするに左の如き奇怪の事を載せたり

廣陵女學校は過日來生徒に授業し來りしも未た官許にはならざる趣なり尙ほ聞く所によれば其筋にては之を宗教學校と見做し屆捨にして可なりとの意見より斯く等閑に推し遷りしならんといふ

と嗚呼果して同新聞の報する所をして信ならしめば吾人は廣島縣は何等の理由あつて宗教學校を聞捨にせらるゝやを解する能はざるなり。

○岡山婦人協會　石本仲、小野きさ兩子以下十四人發起となり同志の婦女相約して處世の要務を講究するを以て目的となし此度岡山婦人協會なるものを設立し先づ第一着に完全なる裁縫所を設け唱歌講習會を開く由にて會長には千阪縣知事の夫人を推選する筈なりと云ふ。

○上毛婦人教育會秋季大會の景況　該會ハ豫め定められし如く去ぬる十一日臨江閣に於て開かれにき今其の概況を摘記せんに數日前より其の準備に心を盡されける職員諸氏即ち佐藤會長明府の萱堂千谷會我部兩副會長（孰れも夫人）を首として幹事委員の向き悉く早朝より會塲へ詰きりて諸般の整理の事に從はれぬ其の擔當の役前を擧ぐれば

當日會主（飯塚はな子、下村せい子）會長補助深井しん子、副會長補助（中岡ふみ子、廿田せき子）來賓接待掛（伊藤たま子、岡田とき子、高島のぶ子、鈴木つる子、山崎くに子、森よね子、星野たま子）會員接待掛（吉村のぶ子、染谷いそ子、田部井榮子、藤井かね子、松田はつ子、）茶道掛川口鶴仙唱歌掛水野くに子同主任高山いよ子同補助（高間くら子、九條まさ子、水野みを子）唱歌生（佐藤たに子、磯村まつ子、佐藤せい子、木村やへ子、山崎しま子、森さく子、）

當日は生憎にも朝來陰雲低く垂れ今にも雨らんとするの氣はひなりしかば遠地より來り集ひぬべき方々は如何あらんかと打案じられしに本部たる前橋の會員は言ふも更なり高崎安中藤岡原町など各支部を主とし富岡伊勢崎よりも己々皆な先を競ひて來り會はれ午前十一時の比ひまでにはハヤ三百名近くに垂としけり乃て一同へ茶菓の饗應ありて會議を開き小野島行薰氏幹事に代りて事務報告をなし引續きて雜誌其他二三の件々を議り了へしに時恰も亭午なりしかば一同に午餐を供し更に後一時より唱歌祝詞演說などありて四時過解散せり。

○彙報　駿州靜岡の靜岡女學校は去る三日移轉式を執行せり○京都府高等女學校の生徒二百五十余名は去る十四日運動の爲め東山眞如堂、若王子、永觀堂等へ赴きたり○近江婦人慈善會は去る十一日を以て、大上支會の開會式を執行せり○京都婦人慈善會は去る十一日京都盲啞院に於て例會を開きたり○大館婦人會は毎月二三回づゝ講筵を開き居られしが陸續贊成者ありて次第に盛大に趣く由○熊本縣下八代の有志者は此度八代婦人談話會なるものを開設せられたり○大坂婦人慈善會は兒兒雨子を會長に、廣岡淺子今井慈子を副會長に、撰定せり而して目下會員の數は百五十余名に達したりと云ふ。

外報

（此欄内自由に轉載を許す）

○離婚　過月セルヴイア國の皇后ナタリエは國王ミラン陛下に離緣せられたるが、白耳義王レオポルド二世の皇女にしてステフアニー公主と申すは八年前墺國皇太子ルドルフ大侯に嫁されたるなるが此頃に至り遽りに離緣の兆あらんとするよし、忌々しき外報なり。

○淸國皇太后　攝政を罷められたる以後種々の遊戯に耽り玉ふよしにて其の新趣向の御遊も少なからざる由なるが中に就て近日其の尤も好ませらるゝはカクレンボにして宮中の光明を消し一切暗黑の中に於て隱れさがしなどせらるゝ由尙更らに一つの御遊は深夜舟を宮池に浮べて無燈にて投がしめらるゝにあり舟手は皆な大ひに恐れ居るよし也。（ザレデー）

○日本監督女學校　日本東京に於て貴族の婦女子教育の爲め女學校新設せらるべき筈にて其校監督の爲めニウハムプシアなるアシランドのマルヌ、アルドリッチ孃は此月の便船にて發足さるべし（十月十三日ウーマンス、ジヨウナル）

○パッサル女子大學のスカラルシップ　米國の同女子大學には前年ブウキープシーの故のステッフン、パッキンハム氏の寄附により八千弗の校生補助費を得たるが、此度亦たカンサス州フホルトスカトのカルビン、ハンチントン氏より同じく六千弗の寄附ありしと云ふ。

○婦女子言論の自由　日本東京の佐々木とよ夫人反譯の同書は元第十九頁の譯文の外に國民の友の記者德富猪一郎氏女學雜誌記者巖本善氏の序文即はち女子亦た言論の自由ありてと云ふの附言を添へて出版せられたり十月十三日（ウーマンス、ジヨウナル）

○新女子大學　トロントにあるマックマスター大學と連合したるモウルトン女子大學新に開かれ生徒五十名の入校あり之が爲にはウイリアム、マックスター夫人は其の美なる住宅と外に二萬五千弗を寄附せられたり（カナダ、シチゼン）

○美人共進會　ベルジウムのスパーに於てはいよ〳〵去る週間より美人共進會を開きたり、列席すべきもの三百人の筈なるに現に二十人より出席なし（九月廿七日ザ、レデー）

○獨逸皇女とアレキサンドル公の結婚　獨逸先帝在世の時皇女ヴイクトリア姫と前バルガリア國主アレキサンドル公の間に結婚の約束整ひ伯林にて既に婚儀を行はるゝ筈なりしがビスマーク氏が外交上に關する意見を以て先帝に諫言せられしに因り見合せとなりしが去月十六日倫敦發の報に從へば皇女とアレキサンドル公は英國に於て私に合卺の大禮を擧行するよしなり。

小供談

本號餘白に乏しく不得止此の欄を省く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

女學雜誌代金滯候御方

にして毎々御催促申上候とも尚ほ御拂込無之仁あり而も其御住所すら分明ならさる向も候まゝ如此き御方に限り以後雜誌上に於て御催促申上候に付不惡御承知被下度候但し本社は專ら情義を重んじ候心得に有之決して輕々しく右樣の取計らい不仕存候得共何分三四ヶ月以上も滯り居り候上毎々の御催促に一報をも寄せられざる諸君に對しては實以て不得止の處置と御許容あり度預め申上置候也

女學雜誌社會計係

大敎正本居豐頴君題　大野定子女史作
佐々木弘綱大人校閲　原田鼎洲翁書

女用消息文

文案壹百篇　定價金五拾錢
美書挿入　郵送料金貳拾錢
全二冊

此書ハ新年祝祭日四時時候ノ賀詞訪問等ヨリ日常雜事ノ往復贈答ニ用井ル普通ノ女用書狀ノ文案ヲ示シタルモノナリ又近年書狀ノ文體ニ舊來男女其趣ヲ異ニセルハ其謂ハレナシトノ世論モアレバ其邊スベテ改良シテ而シテ事柄ト用語トハ婦人ニ本分ナル婉淑ノ體ヲ失ハシメズ且字體モ平易ナル行草半假名交リニ大ク書シタレバ文案ヲ求メ旁ラ又習字ノ手本トモナリテ兩得至便ノ最良書ナリ

發兌書肆　東京日本橋區通二町目十三番地　小林新兵衛

私立 女子文藝學舍學科增設廣告

○本舍從來ノ科目ハ和洋服裁縫編物挿花點茶英學數學和歌ノ八科目ナリシヲ今般琴漢學ノ二科目ヲ增設シ且生徒ノ新入ヲ許ス○郵劵二錢御送附アラハ規則書ヲ呈スヘシ○當舍ハ規則トシテ束脩ヲ要セス

麴町區中六番地
白蓮會ニ於テ

私立 女子文藝學舍

西洋綴美本全一冊定價金五十錢郵稅金十二錢

凡ソ婦女ノ業務ハ婦德、家政、文學及手工、兒育、遊藝ノ六科目トス本書ハ佐久間孝君ノ新著ニ係リ開卷婦女ノ德行ヲ說キ次ニ家政料理裁縫編物洗濯及簿記ヲ示シ而シテ文學ハ目今女學校ニテ敎ユル所ノ學科ハ皆セテ洩スコトナキノミナラズ其研究法幷ニ講習要書ヲ遊藝ハ琴、月琴、三味線、茶ノ湯、活花、和歌、等ノ要ヲ撮ミ最後ニ鑑トシテ東西賢婦烈女ノ言行ヲ記述シタルモノニシテ若モ文明社會ノ貴女新婦○○○

新版
婦女實業案内
咬菜軒主人閲
佐久間孝先生著

△人○及○文○明○ノ○母○タ○ラ○ン○ト○欲○ス○ル者ハ坐右欠クベカラサルノ具ナリ請フ讀書ノ人購讀アランコトヲ

發行所　東京日本橋區通一丁目十九番地　書林　大倉孫兵衛

賣捌所東京通三丸善○銀坐博聞社○神田神保町中西屋○京橋區南紺屋町神戸○大阪前川○吉岡○西京大黒屋書店○尾張名古屋川瀬○函館後熊本長崎次郎○薩州鹿兒島吉田幸兵衛○越後長岡目黒十郎○大津小川○懸文敢○常野○横濱丸岡屋○靜岡勝見○廣瀬○伊勢津川島○金澤地方○佐賀河内○長崎安中○伊豫松山土肥○鶴岡山崎○伊賀上野山伏○本州栃木紙五○水戸川又○前橋煥呼堂○甲府五明堂○富山中田○秋田本屋弘前宮本○越後水原島六○信州上田西澤○松本木琴堂○山形五十嵐○陸奥○野崎○八戸浦山○其他各府縣書店ニ差遣シ有之候間御購求ヲ乞フ

小弟儀今春來腦患に罹り居候處追々甚敷到底繁劇地にて全治致し難きに付き一時神學校を辭し地方に退養候間此の段辱知諸姉に告ぐ

明治廿一年十一月

日本聖公會神學生
中野繁利

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

交詢案内（乙）

（催促する勿れ 郵券十錢送れ 委細に申來れ）

●雇はれたき方

七 裁縫 年齡廿三にして家内の手助けとならんが爲め内職に裁縫に雇はれ度き者あり華族樣か町家ならば大家のかたき内にて築地邊ならば通いても宜しとのと其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し

十三 敎師 栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御内にても敎授に雇はれたきものあり可成くは麹町か駿河台邊を望む

一九 召使 裁縫の敎授を專にし其他女子學校等監督兼留守居樣の者に雇れたし

二〇 裁縫 年齡十四五才にて華族樣か或官員方の御方之内ヨ小間使に雇はれたし最も餘暇に讀書授けくだされば給料は不申受

二四 奉公 年齡廿二才にして一と通り裁縫もいたし氣輕の生れつきにて華族樣か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし

●喜びのめぐみ

十一 助敎乙第二十三號は築地の某小學校へ雇はれたり

小兒科外來診察廣告

小兒科外來患者（十二年未滿ノ者）ハ自今毎月水金ノ三曜日午前十一時迄ニ來院ノ者ヲ診察治療ス尤モ其症ニヨリテハ施樂ヲナス

明治廿一年十一月

醫科大學 第一醫院

文法口授

鈴木弘恭大人著〇一册定價十八錢

右は明治女學校、成立學舍女子部、跡見女學校、頌榮女學校、長榮女塾等の敎科書なりし處**第一高等中學校**に於ても此度び**教科書と認定**せられたり、他の各女學校及び男子の學校に於ても同樣に採用せられんことを請ふ

女學雜誌社

發兌

九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價

一册。五錢	郵税。一錢	（但府内無郵税）	
十册。四十八錢	郵税。十錢	（同前）	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲ぐる毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行 一回 前金拾錢 （廿七字詰）
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町駸々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文壽堂○横濱住吉町角田宅貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入淨集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボードー○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十一年十一月廿二日印刷
明治二十一年十一月廿四日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."
Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

交詢案内

（催促する勿れ 郵券十錢送れ 委細に申來れ）

●雇はれたき方　（乙）

七　裁縫　年齢廿三にして家内の手助けとならんが爲め内職に裁縫に雇はれ度き者あり華族樣か町家ならば大家のかたき内にて築地邊ならば通いても宜しとのと其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し

十三　教師　栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御内にても教授に雇はれたきものあり可成くは麴町か駿河台邊を望む

一九　召使　裁縫の教授を専にし其他女子學校等監督兼留守居様の者に雇れたし

二〇　裁縫　年齢十四五才にて華族樣か或官員方の御方之内ヨ小間使に雇はれたし最も餘暇に讀書授けくだされば給料は不申受

二四　奉公　年齢廿二才にして一と通り裁縫もいたし氣輕の生れつきにて華族樣か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし

●喜びのめぐみ

十一　助教　乙第二十三號は築地の某小學校へ雇はれたり

小兒科外來診察廣告

小兒科外來患者（十二年未滿ノ者）ハ自今毎月水金ノ三曜日午前十一時迄ニ來院ノ者ヲ診察治療ス尤モ其症ニヨリテハ施藥チナス

明治廿一年十一月

醫科大學　第一醫院

文法口授

鈴木弘恭大人著〇一册定價十八錢

右は明治女學校、成立學舍女子部、跡見女學校、頌榮女學校、長榮女塾等の教科書なりし處**第一高等中學校**に於ても此度び**教科書**と**認定**せられたり、他の各女學校及び男子の學校に於ても同樣に採用せられんことを請ふ

女學雜誌社

發	兌				
九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價

一册。五錢　郵税。一錢　（但府内無郵税）

十册。四十八錢郵税。十錢　（同前）

半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢

一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行（廿七字詰）一回　前金拾錢

同　三回以上　一割引

同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町殿々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文壽堂○横濱住吉町角田宝貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入淨集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十一年十一月廿二日印刷
明治二十一年十一月廿四日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐